

日本鑄造工学会第 166 回全国講演大会技術講習会のご案内

「QC 手法を用いた鑄造現場改善の進め方」

協賛 日本科学技術連盟 QC サークル本部

鑄造現場は数えきれないほど多くの変動要因の中で生産を行っており、毎日のように原因のわからない不良に悩まされることが多いのでは、と思います。このようなとき私たちは鑄造技術を駆使して問題の解決を図ろうとします。しかし鑄造技術を活用して対策を行っても問題が解決しないことが多くあります。鑄造工学誌掲載の現場技術改善事例では、このような苦労を乗り越えて、解決した多くの事例を見ることができます。鑄造現場で起きる様々な問題の解決には、鑄造技術(専門固有技術)だけでなく、管理技術、即ち統計的な手法を組み合わせることで問題を「見える化」していくことにより、解決の糸口が見えて来ます。現場で起きる様々なできごとに対し、品質管理の基本である「QC 的なものの見方・考え方」や「QC ストーリーに基づいた問題解決のステップ」そして基礎的な「QC7 つ道具」の手法を学ぶことは問題を解決するために大変重要です。

今回は、QC7 つ道具のうち、よく使われるものの代表として、問題の絞り込みに用いる「パレート図」、取ったデータの整理に有効な「ヒストグラム」の演習を行い、要因の解析に用いると便利な「特性要因図」については、その作り方について解説いたします。第 3 部では、4 社の改善事例について発表してもらい、その内容について企業で QC サークルの指導に携わっている方に講評してもらいます。

このような観点で、中小企業で現場改善を進めたいが、その方法で困っている鑄造作業員、品質保証に携わる方、QC 手法活用において初心者の方々を主な対象者として、日本科学技術連盟 QC サークル本部のご協賛をいただきながら、技術講習会を企画しました。このような趣旨で、参加費も会員・非会員を問わず、5,000 円と安く設定いたしました。

ぜひ多くの方々の積極的なご参加をお待ちしております。

- 【 日 時 】 2015(平成 27)年 5 月 22 日(金) 10:00~17:00
- 【 場 所 】 早稲田大学 西早稲田キャンパス 55 号館 N 棟 1 階 大会議室
東京都新宿区大久保 3-4-1
- 【 参 加 費 】 一般:5,000 円, 学生:1000 円 (会員・非会員を問わず)
- 【 定 員 】 100 名 (定員に達し次第, 締め切ります)
- 【 申 込 方 法 】 ホームページ「技術講習会申込みフォーム」によりお申込み下さい。
URL:<http://jfs.or.jp/>
- 【 申 込 期 限 】 事前申込締切日 : 2015 年 5 月 6 日(水) ※以降は当日受け付けになります。



----- プログラム -----

司会:駒崎 徹(リョービ(株))

[第1部]

- 10:00～10:05 開会の挨拶 関東支部企画委員会委員長 西 直美
- 10:05～11:05 QC 的ものの見方・考え方とQC7つ道具概要
日本科学技術連盟 嘱託 QC サークル本部幹事 瀧沢幸男
- 11:05～12:05 QC ストーリーを用いた問題解決の進め方
公益社団法人 日本鑄造工学会 常務理事・事務局長 佐藤万企夫

----- 12:05～13:00 昼食休憩 -----

[第2部]

- 13:00～15:00 代表的な QC7 つ道具の演習 日本科学技術連盟 嘱託 QC サークル本部幹事 瀧沢幸男
・パレート図 (補助) 佐藤万企夫
・ヒストグラム
・特性要因図(説明のみ)

----- 15:00～15:15 休憩 -----

[第3部]

- 15:15～16:55 事例発表と講評
- 鑄鉄部門
- 1) 株式会社 真岡製作所
「ダクタイル鑄造工場での Mg 歩留調査と作業方法の見直しによる球状化剤使用量の低減」
- 2) 株式会社アイメタルテクノロジー
「電気炉、炉修方法の見直しによる溶解能力の向上」
- 非鉄部門
- 3) 本田金属技術株式会社
「アルミ鑄物中子造型ロボットラインの不良削減」
- 4) 秋葉ダイカスト工業所
「アルミニウム合金ダイカストの欠け込み不良改善事例」
(講評者) 日産自動車株式会社 パワートレイン技術開発試作部 主担 林 憲司
株式会社 アイメタルテクノロジー 技術センター 佐藤和則
- 16:55～17:00 閉会の挨拶 関東支部長 神戸洋史